

## ポスター発表「飼育委員会から全校児童への発信

～出会おう，ふれあおう，にわとりと～

山田正樹 村下芳子 永野美恵 森知恵子



### 1 はじめに

本校では6羽のニワトリを飼育しており，5，6年生の飼育委員会が世話をしている。飼育小屋の付近は業者の車が行き来する位置にあるため，他の児童は行ってはいけないとされている場所にある。そのため，興味をもっている児童は多くいるのに，飼育委員以外の児童はなかなかニワトリと関わりづらいという現状があった。

そんなある日，「校長先生と昼食会～学校をよりよくするための取り組みを考えよう～」が催された。飼育委員会代表として参加した委員長から，「かわいいニワトリたち



と，自分たちだけが関わっているのはもったいないので，ニワトリたちのことを全校に広めていきたい。そんな取り組みをしたいです。」というアイデアが出された。そこから始まった取り組みは，今年で3年目を迎える。

### 2 1年目「ニワトリふれあいコーナー」

委員長の発案から，委員会の子どもたちで話し合った。「実際にニワトリに触れることができるといいね。」「大勢で触ろうとすると，ニワトリが怖がらないか心配。」「車やボールからよけられて，安全にできる場所はどこだろう。』最終的に，学年ごとに曜日を決めて，校庭の隅に段ボールで囲いを作ったコーナーを設け，5人ずつ順番にニワトリと触れ合ってもらおう，という形に落ち着いた。同時進行して，ニワトリたちの特徴をお昼の放送で発表する，ニワトリのクイズを作って新聞にして掲示する，という活動も行われた。たくさんの児童がニワトリを近くで見て，触って，知るきっかけとなった。「ニワトリが温かかった。」「かわいかったよ。また，だっこしてみたいな。」と，いくつもの感想が寄せられた。



### 3 2年目「ニワトリお絵かき大会」

年度が替わって新しい5，6年生が委員会のメンバーになった。日々の世話が軌道に乗ってきた頃，「今年も何か，皆に広めるような活動がしたい。」と，誰からともなく声が上がった。「賛成。皆，喜んでくれてい



「でも、あれだとニワトリたちが疲れて、ストレスにならないか心配だった。」

しばらくの話し合いの末、ニワトリにとって負担が少なくなるように、とお絵かき大会にすることに決まった。学年ごとに日を決めて、ニワトリの周りで絵を描いてもらう。集めた絵を委員会で選定し、代表作品を学年で1枚ずつ決めて校内に掲示するという流れになった。ニワトリと仲良くなりたいたい子どもたち、興味はあるけれど触るのは怖いと感じていた子どもたちも、ニワトリを円く囲んで真剣に描いた。子どもたちの輪の真ん中で、ニワトリはゆっくりと歩いたり、座り込んだり、時には糞をしてびっくりさせたり、リラックスしてモデルを務めてくれた。その一つ一つに目を輝かせ、嬉しそうに笑う子どもたちの姿に、企画した委員会のメンバーも達成感を味わっていた。

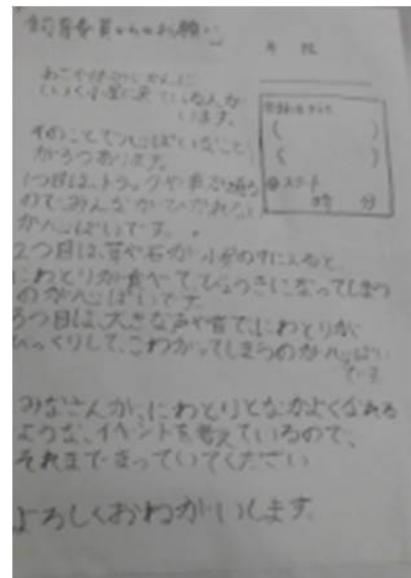
描きあがった絵は、ユーモラスなものからとてもリアルに描かれているものまであったが、どれも子どもたちがニワトリに向けた愛おしさが感じられるものばかりだった。その中で選ばれた7枚（学年で1枚＋特別賞）の絵は、特によくニワトリを観て丁寧に描いてあることが伝わる作品で、全校児童が通る昇降口の正面にしばらくの間掲示した。授業中や普段の生活の中で見るのとは違う子どもの活躍に、担任やクラスメイトからも大きな拍手が上がったとのことだった。



#### 4 飼育委員会からのお願い

ある日の定例委員会で、こんな意見が上がった。「飼育委員ではない人が、小屋の所に来ていて草をあげているのを見た。安全上の心配もあるし、ニワトリにもよくないし、なんとかやめてもらうにはどうしたらいいだろう。」というものだった。

早速話し合い、「なぜやめてほしいと思っているかを全校のみんなに伝えよう。」という意見にまとめ、低学年にもわかるような文面を考えた。クラスごとに分担を決めて



給食時間に伝えに行ったり、ポスターにして小屋に貼ったりして伝えた結果、状況はだいぶ改善された。楽しい企画を考える時だけでなく、困っている状況を共有して飼育環境をよりよいものにしたい時も、子どもたちは自分たちの思いを全校児童に伝えることに積極的だった。

## 5 おわりに

これまでの2年間の取組を見てきた今年の5・6年生の中には、委員会を選ぶ段階からこのような活動をイメージして飼育委員会を選んだ子もいたようであった。5月には早速、「今年は何なことをしようか。」と委員長がもちかけ、数回の話し合いを重ねて、活動の見通しを立てたところである。

毎年感じているのは、生き物と関わることを選んで委員会に入ってくる子どもたちは、表に出る姿や言葉はどうであれ、自分の中に深い世界をもっていることが多い、ということである。希望の委員会に入れずに飼育委員会に入ってきた子も、ニワトリの世話を通して触れ合ううちに、大切に思う気持ちがわいてくる。温かい気持ちを自分の中に蓄え、それを全校の皆にも分けてあげたい。どうしたらいいか知恵を出し合う子どもたちを見ていると、ニワトリとの関わりの中で成長していることを実感する。



## 6 発表当日を振り返って

パネルを掲示していると、観覧してくださる方たちからいろいろな声をかけていただいた。児童から発信しているということに関心を抱いてくださる方が多かった。なかでも、近隣の『こども動物自然公園』の飼育員の方からのお話はとてもありがたかった。今年度計画中の取り組みのひとつ、「ニワトリたちの遊び道具のアイデアを募集しよう。」という活動について、「とてもいいですね。ニワトリの習性や生態を調べ

て、安全に遊ばせられるようなおもちゃが作れるといいですね。」とアドバイスを頂くことができた。2学期最初の委員会で、子どもたちに伝えると、嬉しそうに聞いており、今後の実施に向けてのいい励みとなった。「何か質問があれば、連絡をくださいね。」と言っていただいたことはとても心強く、このような交流が生まれたことに感謝の気持ちでいっぱいである。

小平市立小平第十小学校